

□海外文献紹介□

リンパ球性胃炎—慢性びらん性胃炎との関係についての prospective 研究

Lymphocytic gastritis—prospective study of its relationship with varioliform gastritis: *Haot J, et al* (Gut 31: 282-285, 1990)

1985年、筆者らは lymphocytic gastritis と呼ばれる胃粘膜上皮内に高密度のリンパ球浸潤で特徴づけられる新しい病理組織学的な疾患単位を発表した。著者らの retrospective な研究では、varioliform gastritis の多くの生検所見は lymphocytic gastritis に典型的な粘膜上皮内的高密度のリンパ球浸潤所見を呈した。

今回 prospective に内視鏡による varioliform gastritis の診断と組織学的な lymphocytic gastritis の診断

との関連性を明らかにする目的で研究が企画された。

varioliform gastritis の内視鏡的な特徴はびらんを伴った腫大した襞やびまん性に拡がったびらんを有する小結節である。varioliform gastritis は病変の分布する部位によって diffuse, corporeal, antral の3つに分けられる。lymphocytic gastritis の診断は組織学的に非常に多くの上皮内リンパ球の存在による。腫瘍の合併していない 4,840 例を対象に、すべての患者において 3-5 個の生検が結節やびらん部から実施された。

66 例 (1.4%) が内視鏡的に varioliform gastritis と診断され、diffuse 35, corporeal 20, antral 11 であり、そのうち組織学的に lymphocytic gastritis であった症例は各々 35,

18.1 であった。すなわち varioliform gastritis の 82% (54/66) が lymphocytic gastritis と関連しており、病変が前庭部に限局しているものを除けば 96% (53/55) が関連していた。

組織学的所見では 67 例が lymphocytic gastritis であり、54 例が varioliform gastritis に一致した。13 例は varioliform gastritis と異なった内視鏡所見を呈し、2 例は不完全な lymphocytic gastritis とも言える所見で、3 例はびらん、3 例は潰瘍、5 例は特に所見を認めなかった。lymphocytic gastritis の組織学的概念は varioliform gastritis を超えて拡がっているように思われる。

(愛知県がんセンター消化器内科

中村常哉 抄)